

第6回豊島島の学校 記録



昨年度に引き続き、第6回豊島島の学校が2008年8月22日～24日に開催された。県内外からの参加者たち（約30名）が、不法投棄現場の見学や地引き網体験、シンポジウムなどを通じて、島について学ぶとともに、島を楽しみ、島民や参加者と交流を図った。

1日目（22日）

岡山、高松からフェリーとマリニアスカに乗って、今年も北は北海道、南は九州から参加者が来島された。13時に家浦の小学校に集合して、開校式を実施、議長に就任された濱中氏の開校の挨拶で第6回の島の学校も無事に開催された。

はじめに不法投棄現場の見学を実施した。2台のバスに分かれて、安岐正三氏と長坂三治氏の案内で現場・心の資料館・中間保管梱包施設・高度排水処理施設の見学を実施、今年とは昨年度まではなかった豊島の歴史の紹介ビデオ（山陽放送 曾根氏 監修）を見て、安岐氏の住民の闘いの歴史と今後に向けた取り組みについて話を伺うことで、参加者は例年よりも詳細に豊島の不法投棄とその取り組みについて学ぶことができた。その後、バスで島内を見学し、豊島の魅力を堪能した。

2日目（23日）

参加者と豊島住民、総勢約80人が参加し、町立豊島小で授業を実施した。科学技術者メディア 早稲田共創 法律家 豊島の歴史 - - 5クラスに分かれ、それぞれの角度から不法投棄事件や島の魅力について考えた。科学技術者クラスでは、京都大大学院の植田和弘教授＝環境経済学＝が「循環型社会と不法投棄・原状回復」と題して講義。植田教授は「経済は『不法投棄したい』と思わせる仕組みになっている」と指摘。豊島事件の原因に、抑止力を持たなかった法律と行政を挙げた。対策として、産廃処理の際に現金を預かり、適正に処理された場合のみ返却するデポジット（預託金）制度を提案した。メディアクラスでは参加者とともに豊島の現状と課題、豊島へのイメージについて意見交換を行い、豊島の不法投棄問題の解決と今後の豊島の活性化に向けたメディアの効果や取り組み等に関する説明があった。早稲田共創クラスでは豊島の活性化に向けての取り組みについて話し合った。昨年度までは豊島通貨をブレイクダウンし、より具体的な方法として“豊島ブランドを立ち上げよう”をキャッチフレーズに豊島の産品を活かしたアイスクリーム開発を住民（特にご婦人）とともに実施した。クラスの間には絞りたての牛乳と産んだばかりの卵

を使ったアイスクリーム、ヤマモモアイス、サザエアイス、オリーブアイスを作り、ノリやウニ、早稲田米、ママカリのアイスクリームを試食し、豊島のご当地アイスとしてどんなアイスクリームを作るとよいかについてディスカッションを行った。婦人会からアイスクリームメーカーを貸してもらえたら、おいしいママカリアイスやイチゴアイスの開発を行うと積極的なコメントも貰い、講師・参加者・住民の楽しい意見交換ができた。歴史クラスでは遠部氏、松田氏、小野氏から豊島の歴史的価値について、貝塚・豊島石・遺跡などさまざまな角度から説明があった。豊島には瀬戸内海で最古の貝塚“礼田崎貝塚”があり、さらに、不法投棄が行われた水が浦のエリアには所狭しと遺跡があり、豊島の中に存在する2,30箇所遺跡がある中で超集中地点といえると説明があった。また、豊島石が古くから重宝された貴重なものであり、豊島石を巡ることで昔の流通について調べることができるという夢のある説明があった。ビデオ「巨大な壁と戦いを続けて」(公害調停最終合意までの最後の1か月をテーマ)を見たあと、大川先生から弁護士が豊島での不法投棄問題に係るようになった歴史・背景・想いを語った後、どのような法的措置を取ることで調停を締結するに至ったのかについて説明があり、参加者から“香川県の弁護士の存在感”や“住民と弁護士の信頼関係”、“若手の弁護士への期待”などの質疑応答が行われた。

午後は、島西部の「柚(ゆ)の浜」で地引き網漁を体験。浜から約90メートルの沖合に張られた網を汗だくで引き上げると、オオダコやフグ、ベラなどがかかっていた。初めて体験した参加者は「網を引くのはしんどかったけど、思っていたより取れて楽しかった」と感想を言っていた。

3日目(24日)

最終日は2日目のクラスの報告がされたあと、植田教授の講演「めざすべき循環型社会と豊島」があり、持続可能な地域社会をキーワードに豊島問題の原因とこれを通じた教訓について、そして豊島の再生に向けて“豊島の生産的基盤(資本資産と制度)の構築”、“豊島の内発性と共感・ネットワークの構築”、“豊島(地域公共)人材・討議・コミュニケーション”の提案があった。パネルディスカッションではパネリストに植田氏、濱中氏、山口氏、永井氏、コーディネータに石田氏を迎え、豊島の再生について考えた。3日間の島の学校の締めくくりに参加者代表からのお礼の言葉と修了式を行い、安岐氏作詞・作曲の島の学校の歌を全員で歌った。

その後、第2回の島の学校で永田教授(早稲田大学)より提案があり、立ち上げられた豊島学(楽)会の交流会が開催された。

【以下、2日目のクラスの詳細】

1 . 科学技術者クラス

講師：植田和弘（京都大学） 司会進行：中地重晴（中央監視研究所）

参加者：参加者 4 名 + 10 名

講義

- ・ 最初 20 分 豊島の現状 原状回復等（植田 京都大学）

【島の紹介】（中地 中央監視研究所）

- ・ 島の紹介
- ・ 豊島事件の経歴
- ・ 豊島事件 廃棄物処理法の改正

【循環型社会と不法投棄・原状回復】（植田 京都大学）

- ・ 横浜市は環境悪化に伴い 1964 年に公害防止協定を制定しました。これは法律でも条例でもなく、未だ環境省も設立していなかった時代です。世界でも希なものでした。
- ・ 不法投棄をするメリットがあるから、不法投棄は減ることがないと思います。排出事業者は費用の節約を重視し、より安く廃棄物を処理できる処理業者に委託していました。このとき、委託金と廃棄物を処理業者に引き渡していたため、排出業者はもうごみに関心がなくなってしまうことが問題でした。
- ・ 現在、法が制定され、有害物質を含んだ水やガスは排出することはできなくなりました。しかし、有害排水の代わりに汚染泥土であり、有害排ガスの代わりにダストであったりと、問題が転化されたに過ぎません。そして、処理コストを削減するために自分の工場に埋めていました。そのため、工場跡地にマンション建設をする際、土壌汚染が発見される原因となっています。
- ・ 循環型社会を形成するためにはどのようなリサイクルをするのかを明確化する必要があります。もしリサイクルすると環境負荷が大きくなってしまふのでは、リサイクルする意味がないのではないのでしょうか。
- ・ 例えばペットボトルなどはリサイクルシステムそのものが崩壊するかもしれません。というのも、ペットボトル回収後、中国等に輸出したほうがお金になるからです。
- ・ 廃棄物処理までを含めて、“生産”であり、“消費”であるべきです。
- ・ デポジット制度を考えました。それは商品購入時にデポジットとしていくらか徴収するものです。例えば缶でしたら、価格 150 円のものに 10 円のデポジットを徴収し 160 円で販売します。消費者は空き缶を持ってくることで 10 円が返却されるシステムです。
- ・ 島の原状回復と地域の再生をするためには、島民が集まって政策を決めていく必要があります。

議事録

・法が無効だったことについて具体的にお願いいたします。(毎日新聞社)

廃者責任の問題とシュレッダーダストの問題、罰則が緩かったこと、さらには事件に対しての枠がなかったことです。(植田 京都大学)

・処理を安く請け負った理由について教えてください。(中地 中央監視研究所)

大量に集めようとするために安く請け負ったと思います。(植田 京都大学)

・行政が関わらないでうまく循環する社会を作ればよいと思っています。(和田)

法があったら執行する部分が必要であるためです。執行させるための枠組みを作れているのが大事です。形式枠組み上の不備があったため、豊島のような事件が発生したと思っています。

アセスメントの徹底を行政が担当するのは大きな意味があります。4大公害病などの発生は行政の責任ではありますが、だからといって行政がないほうが良いということではありません。行政はどうあるべきかを考える必要があります。(植田 京都大学)

・経済学の観点から見るとリサイクルする必要があるのですか?(ヘイ・チ・ヘイ)

たとえば、古紙のように昔からリサイクルしています。しかし、古紙の価格の上下により法律を作って、リサイクルをするかが今問題になっています。資源になるのか、資源にならないのかは時の資源価格で左右されていました。強制リサイクルをする場合はリサイクルする目的の明確化が必要であります。(植田 京都大学)

ペットボトルは中国に輸出したほうが高く引き取ってくれるから、輸出してしまいます。そのため、リサイクル業界の採算があわなくなってきました。(中地 中央監視研究所)

もともとリサイクルは儲かるからやっていた。しかし採算に合わなくなってきました。そのため法律制定後、税金を用いてリサイクルをするようになりましたが、制度の作り方により、起こる問題や環境影響、経済パフォーマンスが異なってきます。(植田 京都大学)

・不法投棄をなくすためにはどのようにしたら良いか?アイデアを提案してください。

・不法投棄をしたら高くつく(費用・時間)ことを知ってほしいです。公害調停をするときに、次に何をやるのかが我々がやるべきことなのではないのでしょうか。豊島の情報を常に発信し続ける必要があります。(安岐 豊島)

豊島の教訓を世界中の共通認識としていくのが大事です。(植田 京都大学)

豊島は特殊例として扱われてしまう。(安岐 豊島)

・近視眼的な考え方を変えていくのが大事であり、植田先生はどのようにしていくのか興味があります(岡野 京都大学)

土壌を現状に回復するだけでも費用がかかります。どのようにして不法投棄者に“高くつく”ことを知らせるのかについて、環境税等をミニマムの考え方として入れていかないといけないのではないのでしょうか。まだ、はっきりと価値として見えていないのが問題で

あります。(植田 京都大学)

・日本にとっても世界にとっても豊島問題は重要である。(植田 京都大学)

・オランダや中国からの視察団が帰るときに言われるのが“ Never Give Up ”という言葉がありました。この言葉に大変勇気付けられました。(安岐 豊島)

2. メディアクラス

前半

・自己紹介

朝日新聞の張です。行政と戦った景色と私が見た景色はそんなに変わらないと思います。昨日現場に行って、まだまだ先の長い話したと感じました。

・離島が抱える問題について（張先生）

岡野さん（初めて来ました）：夫から聞いたところ、島全体に廃棄物があると思っていました。しかし、住民が住んでいるところはすごくきれいでびっくりしました。

初めて来たときの感想は、離島なので、小さくて島全体に産廃があるのかと思っていました。豊島の緑の濃さが印象的で豊かな島だと感じました。初めて来たときは、産廃が順調に進んでいたときであるけれども、メディアでは大きく取り上げられることはなく、これからどうやって島を再生していくかが問題になっているときでした。

豊島は全国の離島がかかえている問題を持っています。過疎、高齢化、医療の不整備などがあります。

住民小島さん：もし大きなけがをしたら 119 番をして、高松から 30 分以内にむかえが来ます。しかし、海上タクシーには 10000 円もの金額がかかるため、ハードルが高いものになっています。

現在は診療所が 1 件あり、週に 4 日先生が来ます。何かあればその先生に判断（今治せるのか、治せないのか）してもらいます。一時、無医離島になった危機がありました。ガソリンは、190 円/l くらいです。コンビニはないです。香川県で唯一乳児院があります。自分たちが想像のつかないところにしわ寄せがきています。

他の島も、人口が減少し高齢化が進んでいます。高松のまわりにも人口 200 人程度の島がいくつかあり、ドッチボールの全国大会をするなどさまざまな取り組みがされています。

・介護施設について（張先生）

ある島では、「島で死ねるようにしよう」という取り組みがあります。空家を介護施設にして、島で治せない病気でも介護施設で死ぬまで暮らせるようにしています。

島というのは、さまざまな問題を抱えています。

直島は、ベネッセが美術館を作った島です。若い人や外国人が多く訪れています。

豊島では、いちごの栽培をしています。「豊島でも美味しいものが作れる」ということを証明するために始めたいです。元気がないけれども魅力がある島だなと感じています。島民の人柄も島の魅力の一つです。取材をする上で、私たちができることは数日でできることではなく、長い戦いの歴史を考えると困難なことだと感じました。

・参加者の自己紹介

井上さん：スクラップ記事を集めていて、ごみの島の問題をどのように解決すればよいのかということ現場で学ぶために来ました。20年近く戦いを継続する力の源はなにか？様々な島民の話を聞いて「お役にたてたら」と考えています。現在は防災関係の仕事をしています。神戸の震災を体験しています。

青木さん：豊島とは、公害調停が成立した当時からの付き合いです。ごみの切り抜きを作ったときに豊島に出会いました。島に来るのは年に1回か2回です。

萱原さん：香川県に住んでいます。きっかけは、ごみ問題です。実際に現場を確認するために来ました。地元の熱意（こころいき）を羨ましく思っています。関心を持っています。

岡野さん：今日の参加者で一番都会より人間なのではないかと思えます。夫に豊島を勧められたこともありましたが、なかなか来ることはできませんでした。自分で能動的に来てるわけではないという意味で、都会よりであると思えます。自分達が使った商品が島に来ているので、消費者にも責任があるのではないかと考えています。

小堀さん：市民運動で環境活動をしています。豊島は初めてではありません。初めて出会ったのは、公害調停が成立したときです。介護の仕事をしており、豊島は高齢化の先をいっており、その意味でも関心を持っています。

景山先生：岡山で記者をしています。公害調停の成立まで取材をしました。豊島に最初に来たのは1998年です。ゴミの島という印象があったのですが、大変美しい島で豊島が好きになりました。はじめは、生ぬるい気持ちで島に来ましたが、島民の鬼気迫る状況を見て心を入れ替えました。取材をしていくなかで「次の世代につなげたい」という気持ちで一致しているという意思が伝わってきたので、島民の気持ちは本物だなと感じました。公害調停までに私がなにもできなかったという気持ちを持ち、以後の記事を書いたり、島の学校に関わることにしました。

・メディアの仕組みについて：山口先生

朝日新聞の本社は4つ（東京、名古屋、大阪、福岡）あります。それぞれの支社で記事を共有はするけれども、レイアウトはそれぞれの新聞で変わってきます。私は、大阪支社に勤めていますが、東京に記事を書けることに大きな意味があります。それがなかなか難しい・・・。

私は、京都支社に2年、高松支社に3年いました。その後、大阪 東京という順にわたり、9月から環境について担当します。

張先生：現在は大阪本社の編集センターで整理の仕事をしています。整理とは、ニュースの価値を決めレイアウト（第一面はなにか）を決めています。

・経緯

豊島は島の中の島といわれています。それは、県議会に意見がなかなか届かないという

仕組みがあるからです。

Journalism とは？ Jour「日々の、daily」ということから、日々何かを言っていくという
意味があるのではないのでしょうか。ある学者は、「今言うべきことを今言う。」と言ってい
ます。そういう意味で、言うべきことを言ってきた豊島の住民は Journalist だと思います。

75年	申請	} 県議に訴えてきてはいたが・・・
78年	許可	
90年	強制捜査	
93年	調停申請	

Jモードとは、Journalist モードという意味です。

豊島はメディアからすると、取り上げやすい題材です。Jモードでは、死ぬ気で、ない知恵
を絞って運動をしたという点で、魅力があり面白みがあったため現在でも取材を続けてい
ます。

後半

・豊島問題成功の要因は？：山口先生

「島の中の島だった。」 島の中に役所がないため、島民の意見が権力に左右されなかった。
「微妙なバランスで成り立っていた。」 当時、3 地区の道路はつながっていなかった。2
地区だったら、分裂していたのではないのでしょうか？

「キャラがたっている。」 人柄が良いというのも一つの要因だと思います。マスコミとし
てもキャラの濃い人たちが大勢いたり、様々なドラマがあり、ストーリーに事欠がなく、
メディアでも取り上げやすかったです。

・豊島のジレンマ：張先生

ゴミの問題だけを取り上げると誤ったイメージを読者に与えてしまうので、記事の書き
方が難しいです。

井上さん：「50万トンというゴミはとてすごいのではないか」というイメージと実際の様
子が違っていました。町中がゴミだらけだと思っていましたが、ゴミの島という印象で見
るのは間違っていると感じました。

マスコミとしては、多くの読者に読んでもらうために、「全国最大級の・・・」という枕こ
とばをテクニックとして使ったりしていますが、慎重になるべきだと考えています。

景山先生：「中坊弁護団長が現場に神やどる」ということばをおっしゃっていますが、現場
で感じられないものが多いので、現場に行くことは大切だと思っています。

山口先生：東京の霞が関は、様々な情報（資料）が手に入るため、分かっている気になっ

てしまいます。実際に現場を担当するようになってからは、現場の状況を知るのと知らないのとは全然違うなと感じました。マスコミを頼るのではなく、自分でできることをすることが大切だなと感じています。

井上さん：情報は、受動的な状態ではなく発進していくことが大切なのではないか。

いかに伝えていくか・・・。現場に行くことによって、さまざまなものを感じて、今後の人生に影響していくのではないかと思います。私としても、豊島問題に関わって自分でも何かしたいと考えています。

景山先生：今後も、応援団の一人でいたいと考えています。新聞は主観であるので、100%理解して記事を書くことは不可能だと思います。しかし、できる限り現場に行って記事を書くようにしています。

住民小島さん： $10000000（県） = 1300（住民） + x（マスコミ）$ という方程式が豊島問題では成り立ちます。マスコミの力は大きく、逆に様々なことを学んだと思っています。この問題を通して、人間的にも成長したと考えています。

・今後、豊島は再生できるのか。応援者が離れていってしまうのではないか：山口先生
確かに最終合意以降は、豊島が全国的なニュースにはなりにくいと思います。何か他にはないことをすることが大切だと思います。

・まとめ：張先生

新聞は悪いニュースが多いので、良いニュースが多く発信できればと思います。

3 . 早稲田共創クラス

講師：永井祐二（早稲田大学環境総合研究センター）

参加者：4名（島の学校参加者）+ 14名

講義の内容

豊島の活性化に向けて豊島ブランドを作り、3年前から提案している豊島通貨とコラボレーションさせ、通貨で購入できる豊島ブランドを立ち上げ、豊島の魅力をアピールしていきたいと提案がありました。豊島ブランドの1つとして、ご当地アイス（アイスクリーム）を作ってみようというアイスクリーマーを使って、オリーブやヤマモモ、イチゴなどなど参加者が食べてみたい豊島の産品アイスを作って、試食会をしました。豊島通貨についても沖縄や北海道、北九州などさまざまな地域で使える（全国展開）ような通貨となるように大きくしていきたいと説明がありました。

1 つめ：豊島産の牛乳・たまごを使った濃厚アイス

2 つめ：市村さんのヤマモモアイス

3 つめ：サザエのアイス

4 つめ：小豆島のオリーブアイス

試食したアイス

・うに、早稲田米、干しエビ、のり、ママカリ

表 人気投票結果

名称	あり	なし	総合投票	注釈
うに	14	2	1	
早稲田米	16	1	12	
干しエビ	8	8	3	
のり	7	9	4	地元
ママカリ酢漬け	1	16	2	若者
ヤマモモ	16	0	11	
そのまま	12	0	5	
サザエ	16	0	3	
オリーブ				

コメント等

- ・ 素材を生かしたアイスがよい。現物を少し入れるとよい。岡山の白桃アイスは偽物なので、よくない。レモンのアイスを食べたときおいしかった。
- ・ サザエとウニは期間限定で高級なアイスにしても売れると思う。
- ・ 港（シーサイド大西でママカリ、他の物は交流センター）で販売していると買う。
- ・ 他にもイチゴやミカン、レモン、橙のアイスもおいしいと思う。
- ・ ハーブのアイスに花をトッピングで飾ると女性受けすると思う。
- ・ 持って帰れるお土産がほしい。
- ・ ママカリアイス等、素材が死んでいるものがあり、もったいないと思う。アイスクリームメーカーを婦人会に預けてもらえば、おいしいママカリアイスの開発を行ってみたい。
- ・ ヒジキやワカメを素材に、シュレッダーダストアイスを作っても、面白いと思う。
- ・ Yahoo 等のページで管理しているご当地アイスマップに豊島のアイスが載る日が待ち遠しい。
- ・ 早稲田米アイスは他の地域で食べたお米のアイスよりも数倍おいしかった。

4 . 歴史クラス

遠部先生

昨年島の学校で豊島の歴史を話しました。それが今の世の中に必用なのかという質問を受けました。そこで、産廃の島だからこそ考古学が必用だということをお話します。

まず、豊島石の研究がなぜ必要なのかということをお松田さんに話してもらいます。

豊島の中ではいろいろな歴史がありますが、簡単に言うと2万年前から石器を捨て始め、1万年前に土器・会を捨て始めました。遺跡という言う観点から水が裏か周辺を研究してみようと思っています。

産廃のエリアに所狭しと遺跡があります。豊島の中に2,30箇所遺跡がある中で超集中地点といえます。つまり水が裏は遺跡の宝庫です。

考古学の歴史のおさらい。

1952年に香川県でもかなり早い段階で横引遺跡の調査が行われました。1960年に考古学研究会での見学会が行われました。1970年代に香川県が壊れつつあることを確認し、1984年の丹波祐一さんの踏査で壊れていると記述されました。

島の中で考古学をやっていた人が亡くなったり就職したりで1970年代から1980年代にかけて考古学に興味がある人がいなくなりました。また、豊島からは香川史学会員は出ていません。さらに、土庄町の問題でもあるが豊島から文化財審議委員は近年輩出されていないため歴史・文化財が重視されていない側面があるかと思えます。

豊島事件は水ヶ浦の遺跡破壊行為の上に成り立っているということが説明できたかと思えます。遺跡を1個2個壊したからこそ豊島事件が起きたともいえるので遺跡保護は重要であると思えます。

地元の人が遺跡のことを分からないと他地域の人にとってはもっと分かりません。昔、県外の人が調査したときに地名や場所でもめたことがあったので地元の人で詳しい人が必要です。

松田先生：

日本山海名産名物図会に3つの石が紹介されているなかで、豊島石が選ばれ紹介されています。豊島石の研究の仕方にはいろいろありますが、民俗学的なものを主としています。しかしながら、聞き取り調査であるためがんばっても明治時代ぐらいまでしか分からないという課題があります。

私の研究の立場は実際に作られているものをみて研究していくものです。豊島石の建造物は香川県と岡山県に多いのですが、香川県は出身なので分かるのに対し、岡山県は分から

ないので当たり前しだいめぐっていています。

豊島石は黒色で非常に変わったものです。そのため非常に広い範囲に運ばれていったといわれています。徳島県や高知県の海岸線沿いに多く見られ、四国には完全に流通しており、山口や宮崎でも確認されています。

私の研究では石造物の図面をとり、似たもの同士を集め、ある一つの方向に向かって形が変化していくことに気づきました。

豊島石の石造物の紹介。

その後も研究を進め、途中経過としては徳川綱吉の代から、それまでは香川県が主な流通先だったのが岡山に変化しました。さらに明治時代になると墓石がまったくなくなったりともっと今後の研究をつめて活きたいです。

質問：江戸時代に使われていたのが使われなくなったのは藩編成の変化が原因ではないでしょうか？

回答：私もそう考えています。

質問：豊島石は墓石としてはもろいという欠点があるのでそういったことも影響したのでは？

回答：文字を刻んだり構成に残し利するために耐久性がよい墓石が選ばれていったのかと思います。

質問：香川県のお寺などではっきりと文字が読めるのがあるがそれはリニューアルされたりしたのではないのでしょうか？

回答：確かに新しい石なのに古い年号が入っているものがあります。耐久性が弱いのでリニューアルされていったのではないかと思います。

小野先生：犬島には貝塚があります。2004年に台風16号の影響で島の形が大きく変わりました。犬島周辺に遺跡が集中しています。(以下写真の紹介 卵塔墓など)

中学のときに始めて石器を拾ったことをきっかけに興味を持つようになった。石器はどんな形をしているのか、どんな成分でできているのかを自分で勉強しました。もっと新しい石器を見つけたいと中学の社会科先生に相談したところ瀬戸内海の見晴らしのいいところを調査すると見つかりますとアドバイスをいただきました。

弟や友達を連れて犬島の無人島へ渡り28年前の今日(8月23日)に犬島貝塚を発見しました。

豊島から犬島へ

遠部先生：

ヤマトシジミは汽水域にいます。ヤマトシジミノ存在は汽水が安定しているということをしめしています。年代測定の結果礼田崎貝塚は断トツに古いということがわかりました。1万年前は豊島や犬島付近は汽水域だった可能性があります。

神が丘遺跡

遠部先生：神が浜の実態を調査しました。縄文時代前期使われていた遺跡です。大体6千年前とか5千年間とかのものがあります。土器のそこにぼこぼこあなが見られます。これは多孔底土器といわれます。資料は広島にあり、まだ整理はほんの一部ですが今後も作業は続けていきます。豊島の資料は島外に出ており、どうやって里帰りさせるかが問題です。

豊島の古墳

福田先生：十数年前、私が26、7歳のときの話を中心にさせていただきます。豊島には約4億の古墳が見つかっています。形式はたこしき石棺です。白崎古墳群と唐川古墳群、からとについてお話しします。

中心に里があって左右に海上他界・山中他界があり、丘陵頂上他界のほうは山中他界を意味します。そのために、硯とからとと異なる遺跡が存在すると考えられます。考古学の立場では検証ということができませんがその可能性は高いと思います。

ここ十数年の間に豊島の歴史はお変わってしまいました。唐川古墳群の石棺のど真ん中い国土地理院の測量杭が打ち込まれてしまっています。地元の人に監視の目を光らせていたできれば保護につながると思います。

五十嵐先生分（遠部先生が代理）

遺跡は基本的には記念物というジャンルに含まれる。豊島の中に民族などを含めているいろいろなものがありますがそういったものを含めて研究していく必要があります。

今のところ簡単に遺物が拾える場所は袖浜や礼田崎なので拾える可能性はありますが、それ以外の場所では素人では難しいです。しかし、慣れれば異物の集め方のコツをつかむことができ、収集も容易になります。

現実的に豊島の歴史についてよく分からないことがおあるので、島の中に資料を集めるようにしていかなければ行けません。そのためには、地元の人にがんばってもらいたいです。一番大切なのはいつどこで拾ったのかという記録が重要です。明治時代には豊島の遺跡は1つだけでしたが今は数十箇所あるのでどこのものが分からなくなってしまいます。記録を残すことによって次の世代の人がいろいろなことができると思います。

松田先生：

屋島に豊島石に非常によく似た石があります。しかしながら、家浦八幡に豊島石の石造物があるため豊島で切り出した可能性が非常に高いと思われます。墓石以外の製品としては岡山城の階段やといなどがあります。

5 . 法律家クラス

題名 : 「豊島事件と弁護士」

話者 : 大川真郎、山崎、石田

内容

ビデオ「巨大な壁と戦いを続けて」(公害調停最終合意までの最後の1か月をテーマ)

: 約1時間弱

大川氏の話

香川県の職員も取り調べで犯行(責任)を供述。

解決すると思ったが、県側は責任はなかったと主張し、対決が長期化。

調書に関する3年の時効が迫ってくる状況で、豊島住民が中坊弁護士と出会う。

中坊氏

: 日弁連会長を退任した直後、知人を通じて出会う。

: 「住民の熱意、廃棄物問題の重要性、豊島問題」 単なる島の問題ではない

豊島問題に取り組む。「本気で戦うのか?」と住民に問う。

中坊事務所の若手、イワキ氏: 調停申込書を作成

大川氏: 他の弁護士事務所に所属。

4人の弁護士でスタート、その後増員

4人の弁護士の共通点: 公的なお金とは関係なく、社会的に意味のある仕事がしたいという意思。

その後、弁護団の拡充が必要となり、瀬戸内の各県から弁護士を選んだ。(瀬戸内弁護団の結成)

最後まで頑張れた理由: 住民の支援、解決したいという意思

香川県の責任: 住民運動をかわすための知恵までも業者に与える。(金属回収業者の資格を取るように促すなど)

中坊氏: 使える法的手段は徹底的に使う。

土地を売ろうとするのを防ぐ 第三者に譲渡するのを差し押さえる仮処分

住民の立ち入りを禁じることを制限する処分

弱者が負けるとそこに付け込まれてしまう 「全部勝て!」そして「早く勝て!」

豊島運動を住民運動として世論を巻き込まないといけない 香川県庁、銀座などでのデモ活動

世論形成 マスコミの論説記者クラスの人々が書く。

公害調停の内容は非公開が原則

しかし、中坊氏は意に介さず記者に話しまくることで、理解を深めさせる。これが世論の形成に役立つ。

NHK : (当初) 情報を香川県から取るため、県寄りの内容。それを見た中坊氏は、NHKの報道内容を文章化し、問題個所に下線を引いたうえで内容証明しろ、不偏不党であるはずだとつきつける。(NHKの知人(偉い人)にも言ったかもしれない)

NHKの態度をしっかりと見直させる。報道内容を豊島住民側のものにすることができた。
豊島事件後 公調委に持ち込むが、ほとんど成功しない...

住民運動が住民運動の形で勝利することはほとんどない世の中。1,400人が勝利できたのは、「郷土愛」、そして私的利益のための運動ではないことが人々の共感を呼ぶ。(グリーンピースのNo.10)

住民が主役となり、同じ方向に向いて頑張ることができたから専門家および世論の支持を得ることができた。

中坊氏の協力

島外の同志たちの協力

マスコミの良心：環境保全の重要性、住民運動の正当性を伝える。

技術の専門家

公害調停委員会：川崎委員長(東京高裁裁判長退任直後)

工期の遅れについて：香川県側「どうゆう工法をとった方がいいかを決めるのは、香川県と専門家間で相談すればいい」という態度。

調停条項を軽視している。住民と香川県との調停のはず。

山崎氏

森永ヒ素事件(?)に参加した際に、弁護士団団長であった中坊氏に出会う。その後、中坊氏からの誘いにて参加。

住民の勢いがなくなっていることが心配。

石田氏

以前釣りで豊島に来たことあり。1995年のシンポジウムの案内を見たことがきっかけで参加。

住民との信頼関係が重要である。

質疑応答

・香川県の弁護士の存在が薄い。

香川県の弁護士は年配であった。最初の時点で参加されていたが、途中からお互いの不信感があって相談をしなくなった様子。

・住民は疲れているのではないか?

勝訴を勝ち取るまでは全力だった。終わった後は、生活があるし、一致団結はしていない。ただ、少数ながらもしっかりとやっている。

・住民との信頼関係について、住民間の不和について弁護士はどのような距離をとっていたか。

弁護団と住民代表で決めた意見を、各地区・小さなで何度も説明し、理解を深めることで団結を維持。全体集会も行った。

・若手の弁護士に期待していることは。

まず、どんどん参加してほしい。経験をつけている色々な分野で成長してほしいとも思う。

・調停条項を変えることは可能なのか？

不可能。しかし守らないようにしようとするので、監視していくことで守らせることが大事。また、行政は自分の非を認めず、他人の責任にして変えてしまおうとしている。

【写真】





以上